

令和5年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2023,12,22

10月8日（日）に行われた令和5年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、エンベデッドシステムスペシャリスト試験の分析コメントをお知らせします。

■エンベデッドシステムスペシャリスト試験（ES）

[令和5年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 統計情報]

応募者	2,547人
受験者	1,841人
合格者	305人
合格率	16.6%

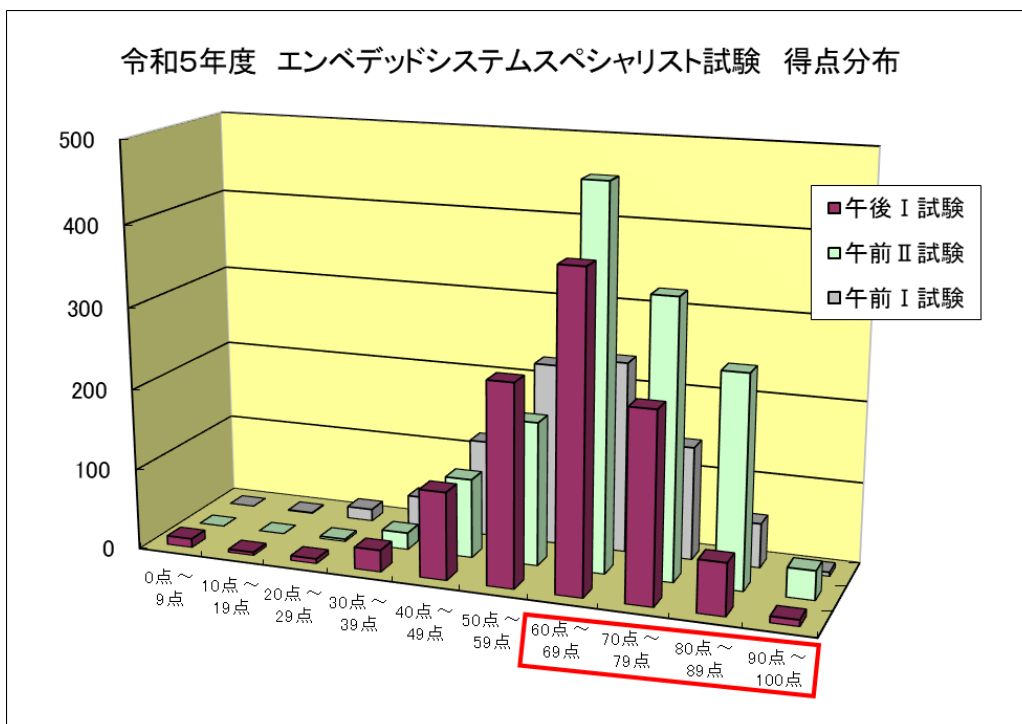
令和5年度秋期実施のエンベデッドシステムスペシャリスト試験の合格率は16.6%で、前回の19.7%から約3%減少しました。今回から午後Ⅰ試験の出題数が2問（従来3問）に、解答数が1問（従来2問）に減り、午後Ⅱ試験は記述式から論述式に変わる大きな変更がありました。試験対策のしづらい初回の試験だったことが合格率の低下に影響したと思われます。

次に発表された得点分布の分析とグラフを示します。

[令和5年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 スコア分布]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	0	11	D 142	
10点～19点	1	0	4		
20点～29点	15	3	6	C 87	
30点～39点	39	21	27		
40点～49点	120	98	108	B 155	
50点～59点	225	177	247		
60点～69点	236	467	386	A 305	
70点～79点	140	341	232		
80点～89点	55	260	64		
90点～100点	5	36	8		
計	836	1,403	1,093	689	305
対前試験比率		167.8%	77.9%	63.0%	44.3%
午前Ⅰ免除者概算	1,005	54.6%			

合格者数	305	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ 60点以上合計	436	52.2%	131
午前Ⅱ 60点以上合計	1,104	78.7%	799
午後Ⅰ 60点以上合計	690	63.1%	385
午後Ⅱ-A 評価	305	44.3%	0



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で1,005人（54.6%）おり、受験者の6割近くが午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点60点以上取ることができた人は436人（受験者の52.2%）でした。

午前 II 試験で基準点以上の人は1,104人（受験者の78.7%）で前回の89.8%からかなり減少しています。午後 I で基準点（60点）以上取れた人は63.1%で、前回の53.1%から10%も増加しています。また、論述式試験に変わった午後 II で合格点のA 評価だった人は44.3%で、従来の記述式試験で基準点以上取れた人の割合と比べると少し低いですが、大きな差はなかったといえます。

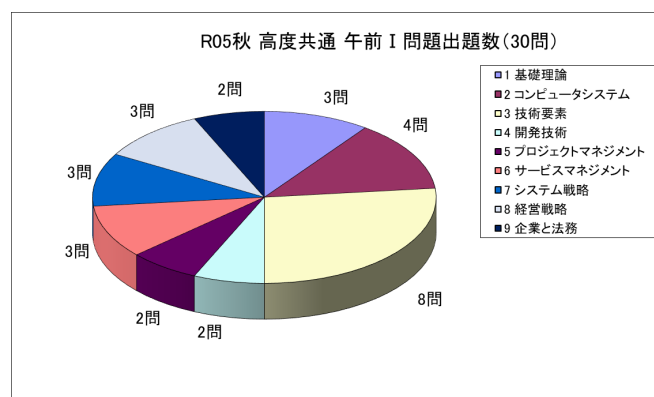
■ 令和5年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験の出題内容について

（午前 I 試験（高度試験の共通知識問題））

高度試験で共通して出される午前 I 試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験（AP）の午前試験80問の中から選ばれていて、テクノロジー系17問（57%）、マネジメント系5問（17%）、ストラテジ系8問（26%）という出題比率です。

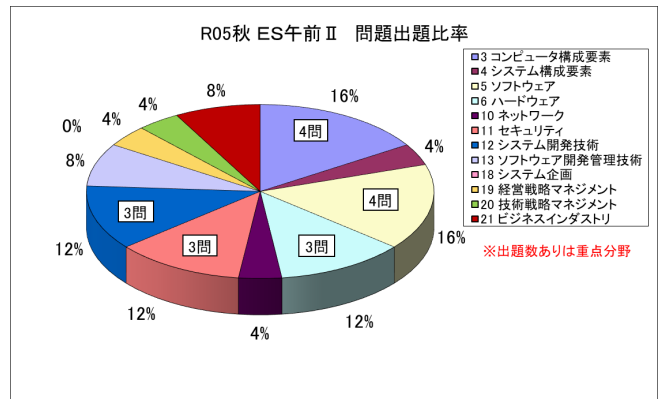
午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験の約4～5割の人が午前 I 試験から受験しています。この中で60点以上の得点で午前 II 試験の採点に進む人は5～6割で、出題範囲が広いため試験問題を難しく感じる人が結構多いといえます。問題が難しいときには4割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前 I 試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

- ・今回の午前 I 試験の内容は、約6割が過去問題でしたが、定番問題が減り、少し難しい問題が多かったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は5問で前回の3問から増えています。



(午前Ⅱ試験(専門知識問題))

今回の午前Ⅱ試験から出題範囲にストラテジ分野のシステム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメントが加わりました。追加された分野で出題された問題内容は平易なものでしたが、経営関連の用語の意味が分かっていないと解答できないので、普段から関連用語の意味を理解する必要があります。過去問題は約7割ありましたが、エンベデッドシステムスペシャリスト試験以外の過去問が増えました。組込み特有のハードウェア、ソフトウェア、システム開発関連の問題は5問出題され(前回6問)、新傾向問題は6問あり少し難しい内容でした。



(午後Ⅰ試験)

今回の試験から出題数が2問、解答数が1問と少なくなりました。試験時間は90分で従来と同じなので、解答の負荷が減ると期待されましたが、出題された問題分量は10ページ程度で、従来の午後Ⅱ試験とあまり変わらず、問題の理解と解答を考える時間としては足りなかった人が多かったと思われる。出題された内容は、問1がハードウェア、問2がソフトウェアを主体とするもので、それぞれ少し難しい問題だったといえます。

(午後Ⅱ試験)

今回から論述式の試験に変わり、出題数は3問になりました。問題内容は、ストラテジ、テクノロジー、企画・開発関連からバランスよく出題されましたが、論述式試験に慣れていない受験者が多かったと考えられること、問題で指定される記述内容が具体的で経験の少ない人がいたと思われることなどから、解答しづらい問題だったといえます。